

1895（明治28）年、園と公園附属地は一つに融
 柿崎巳十郎は正式に青森町 合され、以後公園の維持や
 へ公園附属地を寄付した。 管理は青森町が担うことに
 これまで区別されていた公 なった。柿崎は園丁として



(3) 青森合浦公園

休憩所として使われた「不老亭」と名木「笠松」（明治末期～大正初期・中園裕提供）
 写真手前には公園を東西に横断する旧奥州街道が走る。旧奥州街道沿いの三誓の松
 よりも西側に位置していた。なお、合浦公園通史①（青森県史の窓112）に掲載した
 写真は、不老亭からの眺望である。

公園を整備する作業に関わ
 り続けた。

翌年、それまで青森公園
 と呼ばれていた公園名が合
 浦公園と改称された。水原

衛作は生前、造園中の公園
 を「合浦公園」と書き残し
 ていた。水原の意志は公園
 名に反映したことになる。

しかし名称の変更は、公園
 が水原や柿崎の公園から、
 町（後に市）の公園として

整備拡大されていく始まり
 でもあった。

合浦公園通史③ 海の公園となる

中園 美穂

（青森県史編さん調査研究員）

治31）年5月に竣工した不
 老亭は、約3・6メートル
 の丘の上に建設された休憩
 所だった。

公園は、青森市が主催す
 る大会では園遊会の会場と
 されるなど、市の公園とし
 ての役割を担うようになって

た。1901（明治34）年、
 公園の利用状況をふまえ、
 従来の面積では狭すぎると

して、敷地が海岸まで拡大
 された。

された。

今日、合浦公園
 は海の公園といわ
 れる。しかし、水
 原や柿崎が造園作
 業を行っていた当
 時、公園は海岸ま

で続いていた。合
 浦」とは、東津軽郡や青森
 市ないし外ヶ浜の陸奥湾沿
 岸の呼称とされている。海
 岸まで敷地が広げられた時
 点で、合浦公園は名実とも
 に海の公園となったわけ
 ある。

青森町（1898年に市
 制施行）は、公園設計に関
 する計画書を作成し、公園
 の造園作業をすすめていっ
 た。その結果、「笠松」や
 「不老亭」などの名木や施
 設が誕生した。笠松や不老
 亭は絵葉書に採用されるな
 った。特に1898（明

1906（明治39）年、
 青森港が貿易港として指定
 された。これを契機に青森
 市では、藩政時代の青森湊

ある。

1906（明治39）年、
 青森港が貿易港として指定
 された。これを契機に青森
 市では、藩政時代の青森湊

市では、藩政時代の青森湊

を開港と開市の原点とし、
 関連する記念行事を挙行し
 た。その祝賀会場に選ばれ
 たのが合浦公園だった。

これに端を発して、翌年
 に公園創設の有志者でも
 あった木村莊助の頌徳碑が
 公園内に建立された。合浦

公園は青森市の公式行事を
 開催する記念の場所になっ
 たのである。これ以後も公

園は市の公的行事の会場と
 して活用されるようになり、
 次第に青森市の公的空間と
 しての意味合いを深めて
 いった。

1908（明治41）年、
 青森市は長岡安平に対し、
 日露戦後に再び拡大された
 合浦公園の改修計画を依頼
 した。長岡は秋田の千秋公
 園や岩手公園などを手がけ
 た著名な造園家だった。こ
 の計画は、1910（明治

43）年5月の青森大火の影
 響により頓挫した。しかし、
 合浦公園は公園界の権威で
 ある長岡の存在により、海
 の公園として大きな評価を
 得ることになったのである。

合浦公園は公園界の権威で
 ある長岡の存在により、海
 の公園として大きな評価を
 得ることになったのである。

合浦公園は公園界の権威で
 ある長岡の存在により、海
 の公園として大きな評価を
 得ることになったのである。

合浦公園は公園界の権威で
 ある長岡の存在により、海
 の公園として大きな評価を
 得ることになったのである。

合浦公園は公園界の権威で
 ある長岡の存在により、海
 の公園として大きな評価を
 得ることになったのである。